

ご無沙汰しました。久米です。皆さま、如何お過ごしでしょうか？
私もここヨルダンの首都アンマン市に暮らし初めて丁度1カ月になりました。(5.11記)
初めての海外生活がネパールで、あれから既に12年以上が経過しました。
あの当時、観るもの、聞くもの全てが新鮮な驚きで、「一人の経験に留めるにはもったいない」という想いで個人通信《ヒマラーヤ》を編集し、親しい人たちにお届けしました。
その後も通信の名称を換えて断続的に発行してきました。相も変わらず、全くの独りよがりな活動ですが、私個人の為には大きな意義を感じております。とすることで、ヨルダンからの自己満足通信をお届けいたします。通信タイトルは日本語の「お元気ですか？」のアラビア語です。いつもみなさん方の身近に居て声をかける気持ちと、フィリピン時代の《クムスター カ？》というタガログ語と同じ意味にしました。

話題其の1：ヨルダンって？

中近東、アラビア半島の付け根にあたり、サウジアラビア、イラク、シリア、イスラエルと国境を接しています。日本との時差は夏時間でヨルダンが6時間遅れています。

人口は450万人程度で、その60%がパレスチナ難民です。パレスチナ難民の存在やその背景については、今後折りに触れて紹介して行くことにします。

「中近東」から誰もがイメージするものは、『紛争地帯』や『イスラム教文化圏』だと思います。幸いにも、私の生活するヨルダンの首都アンマン市はとても平和です。毎週金曜日がイスラム教では特別なお祈りの日で、職場も学校も休みです。また日課的には起きて寝るまでに5回のお祈りタイムがあります。イスラム教にはコーランといってキリスト教でいう『聖書』にあたるものがあります。コーランには「これでもか」というほどに厳しいしきたりを人々に示唆しています。ここで生活し始めてまだ日が浅いのですが、「砂漠という厳しい自然環境での生活を強いられてきた中近東の人たちを守って行くために必要な多くの生活の知恵がコーランというしきたり集になったのかな？」と感じています。

ここでの第1印象は、街が綺麗で人々に公共心（モラルも）があると感じました。（私の通勤路を中心にした行動範囲内では）やはり人々は神と向き合っているからなのではないでしょうか？

それと、東南アジアを代表するイメージ「途上国＝スラム」がここには見当たりません。当然、「東南アジアは水が豊富で木の文化」「中東は水が貴重で石の文化」という違いからくる『衣・食・住』への工夫も異なるでしょうし、『貧困』の度合いや貧困者の生活様子も違うものと思います。このあたりも観察、学習、経験を積んでお知らせしましょう。

<編集後記>

今回の通信《キーフ ハーレック？》は「5分でゆっくり読めるものを」と意識しています。

また、情報化時代でこの通信も、殆どの方にはメールでお届けします。写真貼付も状況補足には大いに効果的かとは思いますが、50通を越える発送であり、受け手の方のパソコン環境を考慮すると写真貼付は控えさせていただきます。少数ですがメール環境のない方達（私の母など）には写真添付したものをプリントして郵送する予定です。

執筆及び編集：久米 篤憲